

沖英寮便り 2025年10月

第27回沖英寮祭（第19回 あきさみよ豪徳寺祭り） 商店街とコラボ

駅前にてエイサー披露



夏から始まったエイサーの練習は、各々大学やアルバイトで忙しい中、時間のやりくりにも苦労しながらも、寮祭成功という一つの目標に向けて寮生全員が心をひとつにする貴重な経験となりました。またそれは練習のたびに寮監や寮母のあたたかい声かけや励まし、支えがあったからこそだと思います。当初は不安だった寮祭でも、エイサーを心から楽しんで披露することができました。またエイサー練習を通して寮生同士の親睦がこれまで以上に深まり、寮としての一体感を実感することができました。初めての寮祭を無事に終えられたことは大きな達成感となり、これからの寮生活、学校生活への励みになると感じました。(K.N.)





第27回沖英祭では駅前でのエイサー披露「島人の宝」「ミルクムナリ」八重山舞踊「黒島口説」、南灯祭によるエイサーを披露しました。コロナ明けの4年前にはエイサーなど引き継がれてなく祭生集会などで（どうしようか、どうしようか）といろいろ悩み話し合いを続けてきたことが懐かしいです。今では、衣装打掛、パーランクー、しまぞうりも準備できています。それもすべてご協力いただきました沖縄県企業様やご寄付をいただきました県関係者の皆様のおかげです。本当に感謝申し上げます。



（寮監）

クラフト
製太鼓

私は4年間、沖英祭でクラフト太鼓作りに参加しました。1年生の時は、コロナ明けで久しぶりの開催ということもあり、初めての取り組みをみんなで手探りで進めていました。回を重ねるごとに少しずつ慣れていき、今年はこれまでで一番落ち着いて取り組むことができました。クラフト太鼓作りには毎年、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで幅広い年代の方が参加してくれます。4年間を通して、いろんな人と話したり関わったりできたのが一番の思い出です。これからもこの沖英祭が、地域の人たちに親しまれる行事として続いてほしいと思います。（O.K.）

商店街にて県産品や手作り民芸品の販売

祭では、沖縄県企業からご協力いただいた物品や手作り民芸品を販売し、多くの方々にご来場いただきました。接客や呼び込み、商品の説明などを行うなかで、参加した学生一人ひとりが、企業と地域をつなぐ立場としての責任と意義を実感する貴重な機会となりました。地域との連携や社会との関わりを肌で感じる経験を通じて、今後の活動に活かせる大きな学びを得ることができました。

（M.S.）

